

次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト

進捗状況の概要

次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト概要

平成30年度予算額（案）	：650百万円
（平成29年度予算額）	：650百万円）

背景・課題

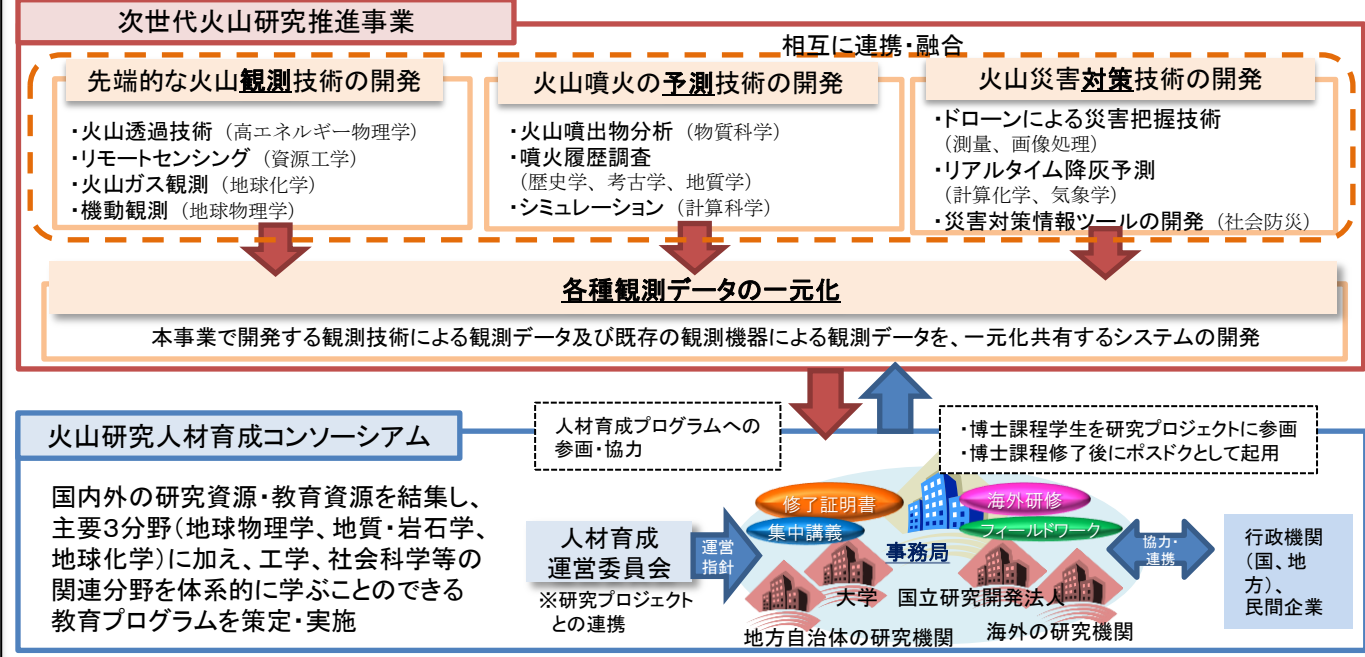
- ◆ 平成26年9月の御嶽山の噴火等を踏まえ、火山研究の推進及び人材育成・確保が求められているが、既存の火山研究は「観測」研究が主流であり、防災・減災に資する「観測・予測・対策」の一体的な火山研究が不十分。それに加え、火山研究者は約80人と少数。
 - ・プロジェクトリーダーの強力なリーダーシップの下、他分野との連携・融合を図り、「観測・予測・対策」の一体的な研究を推進。
 - ・「火山研究人材育成コンソーシアム」を構築し、大学間連携を強化するとともに、最先端の火山研究と連携させた体系的な教育プログラムを提供。
- ※「経済財政運営と改革の基本方針2017」や「科学技術イノベーション総合戦略2017」、「国土強靱化アクションプラン2017」等において火山災害対策の取組について記載。

事業概要

【事業の目的・目標】

- ✓ 「観測・予測・対策」の一体的な火山研究の推進
 - ・直面する火山災害への対応（災害状況をリアルタイムで把握し、活動の推移予測を提示）
 - ・火山噴火の発生確率を提示
- ✓ 理学にとどまらず工学・社会科学等の広範な知識と高度な技能を有する火山研究者の育成・確保
 - ・当面5年間で80人→160人の確保

【事業概要・イメージ】



【事業スキーム】

- ✓ 委託先機関：大学、国立研究開発法人等
- ✓ 事業期間：平成28年度～平成37年度



【これまでの成果】

● 火山研究人材育成コンソーシアム

- ✓ 参画機関（平成29年12月時点）

代表機関：東北大
参加機関：北大、山形大、東工大、東大、名大、京大、九大、鹿児島大
協力機関：防災科研、産総研、国土地理院、気象研究所、神戸大、信州大

✓ 火山研究者育成プログラム受講生の状況

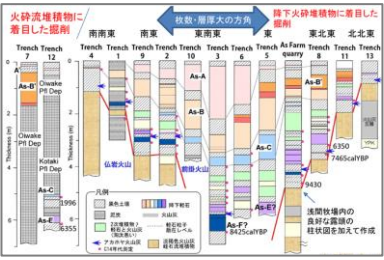
平成28年度受入： 36名
平成29年度受入： 4名
（M1：18名、M2：11名、D1：7名、D2：4名）
平成29年11月：30名の基礎コース修了を認定

次世代火山研究推進事業

これまでに得られた知見（例）

火山噴火の予測技術の開発（噴火履歴調査）

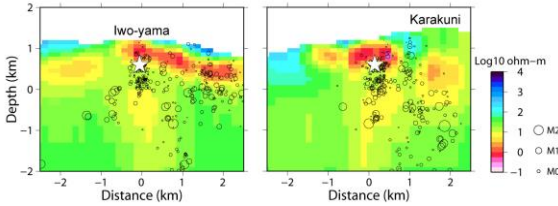
浅間山では、東麓で集中的にトレンチ掘削調査を実施。その結果、これまで不明だった歴史時代以前の降下火砕堆積物の層数や年代、分布が判明。



先端的な火山観測技術の開発

霧島山において広帯域地磁気-地電流（MT）観測、地震観測、GNSS観測等を集中的に実施。

比抵抗構造の把握等を通して、水蒸気噴火を引き起こしうる場の解明に向けた知見が得られている。



火山噴火緊急観測部会

噴火の予兆を把握した場合や噴火が発生した際に、本プロジェクトで定めているアウトプットに資する調査観測を速やかに実施し、得られた情報・観測結果をもって火山噴火に対する防災・減災に資することを目的とする。

草津白根山噴火では、緊急観測の枠組みに基づき研究者を派遣し、臨時観測点を設置した。

次世代火山研究推進事業 データ流通WG

火山分野におけるデータ流通の仕組みについて集中的に検討。単なるデータの共有にとどまらず、火山研究の活性化、観測データの研究や防災への利活用の促進、研究分野間・組織間の連携の強化、火山防災への貢献、人材育成に貢献することを目指し、データ流通の仕組みの基本的枠組みについて、11月に報告書を取りまとめた。今後、本報告書に基づいてシステム開発及び関係機関との調整を進める。

火山研究人材育成コンソーシアム事業

平成28年末より大学・研究機関等が参加するコンソーシアムにおいて、受講生の受け入れを開始。専門科目の授業やフィールド実習、火山学セミナー、インターンシップを実施。平成30年度にはさらに教育内容や関係機関との連携の充実を図る予定。

- ＜主な取組＞
 - 平成29年6月21日～30日 海外フィールド実習（ストロンボリ山）
 - 9月3日～8日 草津白根山フィールド実習
 - 11月 基礎コース修了生30名を認定
 - 3月4日～9日 桜島フィールド実習
- ・インターンシップ実施
 - （気象庁気象研究所、産業技術総合研究所、長野県 等）

次世代火山研究・人材育成総合フォーラム
「火山噴火予測研究の今！ 及びその将来展望」

平成30年1月27日（土） 10:15-13:00
於：池袋サンシャインシティ
（「ぎゅっとぼうさい博！」のプログラムの一部として実施）

セッション1：火山噴火予測研究と噴火警戒レベル

浅間山、阿蘇山、伊豆大島を例として、火山及び防災体制の概要、火山噴火警戒レベル基準設定、火山噴火予測研究の取り組みについて、自治体、気象庁、研究者それぞれのサイドから紹介、火山噴火予測研究への期待等について議論した。



セッション2：次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトにおける火山噴火予測研究の取り組み

防災科学技術研究所の中田氏より、次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトの概要、これまでの成果及びこれからの方向性等について、分かりやすくご説明頂いた。

まとめ（藤井プロジェクト・リーダー）

- 「ぎゅっとぼうさい博！」において、次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトのパネル展示、及び課題D-1（アジア航測株式会社）の協力により撮影用ドローンを展示
- フォーラム開催に合わせて、次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトのパンフレットを更新するとともにリーフレットを作成し、配付



パンフレット（32ページ）



リーフレット（見開きA3）